

# かがやきカレッジ2024

岐阜協立大学は、大垣市内唯一の大学として、誰でも学ぶことができる生涯学習の場を積極的に提供してまいりました。

今年の「かがやきカレッジ 2024」は、7月の前期は「人生100年時代ーサクセスフルエイジングー」を、10月の後期は「大垣の地から考える地域、経済、産業、そして自然」をテーマとして、皆様の「学び」をサポートしてまいります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

受講  
無料  
〈要申込〉

- 日時：2024年7月4日～25日の木曜日  
10月3日～24日の木曜日  
いずれも午後6時～7時30分  
※各講座の詳細は裏面をご覧ください

- 場所：岐阜協立大学 北方キャンパス  
4号館1階・4101教室（大垣市北方町5-50）

- 受講料：無料（要申込）

- 定員：各講座100人（先着順）

- 申込先：岐阜協立大学 総務企画課

TEL：0584-77-3505

FAX：0584-77-3506

E-mail：soumu2@gku.ac.jp



（昨年の講座の様子）



（こちらのHPからも申し込めます）

- 電話、FAX、E-mail いずれかにて、\*受講希望の講座番号・住所・氏名・電話番号をお伝えください（\*全ての講座を受講、いくつかの講座を選んで受講など、ご都合に合わせて選択ください）
- E-mail の場合、タイトルを「かがやきカレッジ受講希望」としてください

## ＜案内図＞



## ＜バス時刻表＞（運賃有料 片道240円）

### ◆岐阜協立大スクール線（平日）

| 大垣駅北口④ 発 | 岐阜協立大学 着 |
|----------|----------|
| 17:40    | 17:52    |

| 岐阜協立大学 発 | 大垣駅北口④ 着 |
|----------|----------|
| 19:36    | 19:48    |
| 20:05    | 20:17    |

お車でお越しの場合は、大学北側駐車場をご利用ください



岐阜協立大学  
マスコットキャラクター  
リバード



大垣市マスコットキャラクター  
おがっきい おあむちゃん

主催：大垣市 共催：岐阜協立大学

| 講座番号 | 開催日          | テーマと概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 講 師               |
|------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 講座 1 | 7/4<br>(木)   | <b>【日本の高齢者を取り巻く現状 ー人生豊かに元気で活躍したいー】</b><br>日本の平均寿命は令和 4 年に男性 81.05 歳、女性 87.09 歳となり、人生 100 年時代が現実的になってきました。一方で日常生活に制限のない期間（健康寿命）は男性 72.68 歳、女性 75.38 歳で、平均寿命と健康寿命に差があります。100 年という長い期間を豊かに、いつまでも元気で活躍した日々を送るためどうしたらよいのか。この回では、健康寿命に焦点をあて、健康寿命を理解するうえで欠かせない知識や医療体制、介護予防など高齢者を取り巻く現状と課題を統計データなどを用いてお話しします。 | 看護学部・講師<br>長谷川 真子 |
| 講座 2 | 7/11<br>(木)  | <b>【ストレスとうまく付き合うために】</b><br>人生 100 年時代において自分らしく生きるためにこころと身体の健康は欠かせません。こころと身体のバランスを崩すきっかけはストレスによるものが多く、自分ではなかなか気づきにくいという特徴があり、さまざまな精神疾患の原因にもなりかねません。この講座では講師の精神科病院の経験をもとに、ストレスとうまく付き合いながら自分らしく生きるための工夫、こころの不調サインと気を付けるべき精神疾患、その予防についてお伝えします。                                                           | 看護学部・准教授<br>小野 悟  |
| 講座 3 | 7/18<br>(木)  | <b>【理解しよう、認知症 やってみよう脳リハビリ】</b><br>認知症は誰にとっても身近なものになっていくと予測されています。認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる「共生」と、認知症の発症や進行を遅らせる「予防」を 2 本柱として、認知症であっても社会参加でき、住み慣れた地域で生活できる仕組み作りが進められています。まずは、認知症を知って早期認知症を発見することの重要性と、発見するポイントを学び、家庭でできる脳リハビリをやってみましょう。                                                                 | 看護学部・准教授<br>松原 薫  |
| 講座 4 | 7/25<br>(木)  | <b>【人生会議してみませんか】</b><br>人生会議とは、人生の終末期における医療やケアの内容について、事前に家族や医師などの信頼できる人たちと話し合うことをいい、自分の命が危険な状態となった場合に、自分の望む形での医療やケアを受けられるようにすることを目的としています。いつかは誰もが体験するであろう「もしもの時」。万が一の状態になってからでは、後悔することになりかねません。そこで、もしバナゲーム（もしものための話し合いゲーム）を通し、人生の最期のあり方に向き合っていきます。                                                    | 看護学部・講師<br>北村 美恵子 |
| 講座 5 | 10/3<br>(木)  | <b>【太政官布達公園としての大垣公園 ー西濃圏域における公共空間の形成ー】</b><br>現在、再整備の基本計画をまとめている大垣公園は太政官布達公園に明治政府から指定された公園がもとになっています。（1）なぜ、明治政府は明治の初期から公園の整備を構想したのか、（2）岐阜県の太政官布達公園にはどのようなものがあるか、（3）イギリスで都市公園というものが生まれてきた背景・事情にはコロナ禍と類似などところがある、（4）公園という公共スペースの新たな価値が目目されるようになっている、という流れでお話しします。                                       | 経営学部・教授<br>竹内 治彦  |
| 講座 6 | 10/10<br>(木) | <b>【貨幣と物価の関係について考える】</b><br>「おかね」は私たちの身近に存在するものですが、それを渡せばなぜ何でも手に入れることができるのか、よく考えると不思議ですね。そこで、そうした「おかね」の仕組みやそれに関連する物価の関係についてお話しします。                                                                                                                                                                    | 経済学部・教授<br>高橋 勉   |
| 講座 7 | 10/17<br>(木) | <b>【近代大垣の工業化 ー1910 年代～1920 年代を中心にー】</b><br>1910 年代に大垣では近代的な企業の新設や誘致が進み、産業構造が劇的に変貌するとともに、1918 年 4 月に市制が施行され、工業都市としての本格的な発展が始まります。そして、その動きは 1920 年代にも着実に継続し、大垣の工業の二大部門、すなわち繊維工業と化学工業が確立することになります。この回では、大垣の近代史において一大転換点となった 1910 年代から 1920 年代を中心に、産業の変化の実態についてみていきます。                                    | 経済学部・教授<br>宇佐見 正史 |
| 講座 8 | 10/24<br>(木) | <b>【人新世における“郷土財”を根拠とした地域づくり】</b><br>21 世紀は、“水の時代”とも言われています。水資源を巡る争い、水害の頻発化、生物多様性を含む水環境の劣化など、多様で複雑な様相で水問題が顕在化しています。その原因の多くは人間活動にあり、現在、人新世の時代にあるといえます。この状況下で地域特性に住民が思い入れをもてる“郷土財”を基軸に置いて、西美濃を含む木曾三川流域の健全な水循環の確保や、地域の活性化を目的とした総合的な管理を実施していく地域づくりを検討します。                                                  | 経済学部・教授<br>森 誠一   |

